

## オオタカの人工修復巣の利用事例

納家仁<sup>1\*</sup>・榮本和幸<sup>2\*</sup>

1. 〒594-1122 大阪府和泉市北田中町311

2. 〒592-0003 大阪府高石市東羽衣6-11-38

オオタカ *Accipiter gentiles* の繁殖失敗要因として、営巣木であるアカマツ *Pinus densiflora* の枯死にともなう巣の落下事例が多く報告されているが(太田ほか 1999), 2000年 6月, 大阪府下にて落下したオオタカの巣を別の木に「人工修復巣」(以下, 修復巣と表記)として設置したところ, 繁殖を継続したのでここに概要を報告する.

今回, 観察したオオタカの営巣場所は, 大阪府岸和田市内の標高約60mの丘陵地のクスノキの大木が優占する照葉樹林内のアカマツの枯れ木(胸高直径20cm, 樹高約9m, 巣の高さ約7m)で, 巣のサイズは直径100cm, 高さ80cm, 複数年使用したと考えられる古巣である(図 1). 営巣林内のアカマツはほとんど枯死しており, 立ち木は皆無の状態である.

2000年 6月11日に繁殖確認調査のため営巣地を訪れたところ, 営巣木が途中で折れて巣が崩れ落ちており, その近くの地上に 2羽のオオタカのヒナ(14日齢程度)を発見した(図 2).



図 1. 枯れたアカマツに架けられたオオタカの巣. 営巣木に対して巣が大きく、半ば崩れかけている  
Fig. 1. The nest of Goshawks on a dead red pine tree. It is too large for the nest tree and collapsing.



図 2. 地上に落下したオオタカのヒナ  
Fig. 2. Goshawk nestlings on the ground under the nest tree.

2006年 1月 6日 受理

キーワード: オオタカ, 救護, 巣の修復, 巣の転落

\*日本野鳥の会大阪支部

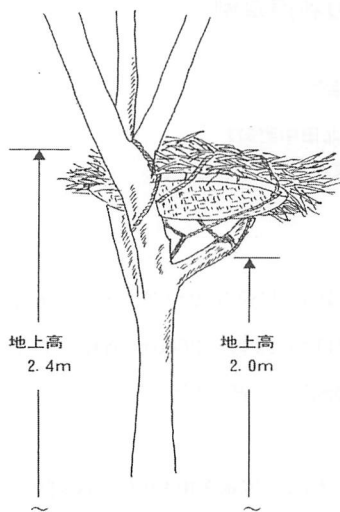


図 3. 修復巣の設置状況

Fig. 3. Availability of setting on repaired nest.



図 4. 修復巣の上のオオタカのヒナ 青葉が運ばれている(2000年 6月18日)

Fig. 4. A goshawk nestling in the repaired nest with green leaves. (June 18, 2000).

親鳥が激しく警戒の声を発していたため、繁殖を放棄していないと判断できたことから、営巣木の近くに崩れた巣材を利用した修復巣を設置し、ヒナをその巣の上に戻すこととした。

修復巣は、巢台として直径60cmの竹のざるを利用し、その上に元の巣材を少しずつ束ねては針金で留め、巣の形を直径90cm、高さ最大30cm、中央部はやや凹型になるように整え、元の巣から約8m離れた樹高約8mのウルシに地上高2mの位置の三つ又部に縄で固定した(図3)。

ヒナを修復巣の上に戻す際に外傷等の確認を行なったが、異常は認められなかった。修復巣の作製からヒナを巣に上げるまで2人で作業を行ない、約40分を要した。約1時間後に巣の様子を確認するため約20mまで近づいたが、親鳥が巣に戻っている気配は無かった。

修復巣を架けた4日後の6月15日の早朝に巣の様子を確認すると親鳥が警戒声をあげ、修復巣の上に2羽のヒナも生きており、親鳥が運んだと思われるたくさんの青葉を確認できた。また巣の周りにはヒナの白いフンの跡が多く見られ、親鳥が修復巣を利用し繁殖活動を継続していることが確認できた。

6月18日には20日齢を超え、褐色の羽毛が目立つようになり、風切羽と雨覆が伸びてくるなど順調に成長している様子が観察(図4)できたが、2日後の6月20日には巣の上でヒナが2羽とも死亡しているのが確認された。ヒナのうち1羽はウジの発生が顕著で、体のほとんどが食べられ扁平に押しつぶされた状態であった。残りの1羽にもたくさんのウジが取りついていて、親鳥の警戒声が営巣林内で確認できたことから、ヒナの死因は育雛の放棄によるものではないと思われた。

なお、死亡したヒナのうち損傷の少ない1羽を「きしわだ自然資料館」に届けた(雛は現在同資料

館で剥製保存されている)。同館の風間学芸員によれば、ヒナのおもな測定値は体重402g、体長381mm、翼開長587mm、尾長198mmであり、解剖所見では性別はおそらく雄で栄養状態は悪くはなく、胃上部から素のうには内容物がしっかり詰まっており、キジバト、ヒヨドリなどの羽毛や小型鳥類の骨のほか、カエルのもと考えられる頭骨が確認されたとのことである。

今回の事例では巣が崩落したにもかかわらず、親鳥が繁殖を放棄せずに人工の修復巣を利用して育雛を継続したことが確認できた。このことから、オオタカの繁殖阻害要因の一つである営巣木の枯死や風雨などによる巣の落下に対し、修復巣の設置が保護の有効な選択枝となり得るものと考えられる。同様の人工巣による保護の試みは、アメリカのミネソタ大学猛禽センターでも多く行なわれており、アカオノスリ *Buteo jamaicensis* やクーパーハイタカ *Accipiter cooperii*、ハクトウワシ *Haliaeetus leucocephalus* などの巣が崩落しヒナが保護された場合には怪我の治療を行ない、近くの木に人工巣を設置したり落下したヒナと同程度の日齢のヒナを持つ、別のつがいの巣に預けるといふ救護策が成果をあげている(Lori Arent 1998)。

なお、大阪府下でのオオタカ調査(橋本正弘ほか 投稿中)によると、巣の高さは平均12mであり、最低でも5mであった。今回は営巣木の周辺にはクスノキなどの高木しかなく、より安全に早く修復巣の設置作業を行なう必要から、獣類等からの捕食の危険を減らす最低限の高さと考えた2mの高さに修復巣の設置を行なったが、巣の高さが低いことが育雛に影響を及ぼした可能性は否定できない。修復巣を設置するにあたり、可能なら元の巣と同等の高さにすることが望ましいと考えられる。

## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、ぎしわだ自然資料館の風間美穂氏には死亡したヒナの状況等について情報をいただいた。また大阪市立自然史博物館の和田岳氏には適切な助言をいただいた。ラブターフォレスト代表の赤木智香子氏にはアメリカミネソタ大学猛禽センターでの活動を教示いただいた。この場を借りてお礼申し上げたい。

## 引用文献

- 太田峰夫・小坂正俊・鈴木伸. 1999. アンケート調査によるオオタカの繁殖失敗事例. *Goshawk* 2: 1-7.  
Lori, Arent. 1998. Clinic Update THE RAPTOR RELEASE, SUMMER. pp. 10-11.

## Case of an artificial nest use by Northern Goshawks

Hitoshi Naya<sup>1</sup> & Kazuyuki Eimoto<sup>2</sup>

1. The Wild Bird Society of Japan, Oosaka Chapter, 311 Kitatanaka, Izumi, Oosaka, 594-1122

2. The Wild Bird Society of Japan, Oosaka Chapter, 6-11-38 Higashihagoromo, Takaishi, Oosaka, 592-0003

In June, 2000 we discovered an active nest of Goshawks *Accipiter gentilis* in a dead red pine tree *Pinus densiflora* in camphor-dominated, broad-leaved evergreen woodlands in the hilly region of Osaka, western Japan.

On June 11, 2000 we visited the nest site again to find two Goshawk chicks on the ground under the nest tree. The nest had fallen down because of the broken tree. Since the behavior of the Goshawk pair suggested that they had not abandoned their breeding, we reconstructed the broken nest using as a base a bamboo basket of 60cm in diameter. The repaired nest was 90cm in diameter and 30cm in height with a slight hollow in the center. We fixed the new nest with a rope to the 2-meter-high forked branch of a sumach tree of ca. 8m in height at a distance of ca. 8m from the original nest tree.

On the early morning of June 15, we heard the alarm calls of the pair and found the two young still alive in the new nest with a large amount of green leaves. We also noticed many white fecal marks around the nest. The pair accepted the repaired nest and continued their breeding.

This suggests that artificial nests may work as an effective conservation measure for breeding Goshawks should they lose their nests due to a broken nest tree, a storm or other reasons.

*Key words:* *Accipiter gentiles*, *nest fall*, *repaired nest*